

総合的な探究の時間の第1の目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。
- (2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

学校の教育目標

- ・活力があり、生徒も教職員もともに幸せで楽しい学校
- ・知・徳・体が調和した豊かな人間性を培い、民主的な社会に貢献し得る人間の育成を目指す学校
- ・地域に貢献し、社会から信頼される生徒を育てるために、一人一人の生徒に誠実に向き合う学校

各学校で定める目標と育成する資質・能力

- (1) (知識・技能) 各教科・科目における見方・考え方を総合的・横断的な活用を通して、実社会で生きて働く資質・能力を養う。
- (2) (思考力・判断力・表現力) 様々な角度から複雑な社会的事象を、自らのあり方や生き方と関連付け、自分の「問い」を生み出し、探究課題に向き合おうとする。
- (3) (学びに向かう力、人間性等) 地域・社会における事象を当事者化し、探究課題に対して主体的に思考・判断する。

総合的な探究の時間の学習評価

教師による観察記録、自己評価や相互評価の状況を記した評価カードや学習記録、レポートや論文、ポスターなどの製作物、教師や外部講師のコメント、学習の記録や作品などを計画的に集積したポートフォリオを用いて行う

生徒の実態

- ① 学習活動に意欲的に取り組むことができず、基礎学力の定着が図れない生徒が存在する。
- ② 社会現象の中における学習に喜びを見いだせない生徒が存在する。
- ③ 挨拶や部活動に積極的に取り組み、学校活性化に貢献する生徒が多数いる。

生徒の発達をどのように支援するか

○配慮を必要とする生徒への指導

- 十分な時間の確保。(活動に取り掛かるまでの時間がかかり易いことや活動が断続的になり易いことへの配慮)
- 学習内容等の順序などを分かりやすくするために、活動予定表などを活用する。
- 時間の見通しを示す。(終了時刻揭示やタイマーによる残り時間の揭示など)

目指す生徒の姿

身近な事象や興味関心のある事柄についてそれぞれの分野の視点からとらえて探究活動を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していく姿勢を身につける。

各学校が定める内容(目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力)

- ・自らの進路と結び付けて課題を設定する。(進路に関する事象を、自らのあり方や生き方と関連付け、自分の「問い」を生み出し、探究課題に向き合おうとする力)
- ・設定した課題から導かれる問い、仮説に対して、課題解決に向けて実験や検証、フィールドワークを実施する。(各教科・科目における見方・考え方を総合的・横断的に活用する力)
- ・班毎に収集した情報をまとめ分析し、発表用のポスターを作成する。(地域・社会における事象を当事者化し、探究課題に対して主体的に思考・判断しより深い学びへとつなげる力)
- ・学級ごとに発表会を実施する。その後優秀な作品を選出し、学年発表を実施する。

学習活動、指導方法等

- ・進路と自分の興味・関心を結びつけ、該当する分野における「問い」を設定する。(外部講師)
- ・情報収集やフィールドワークについてのガイダンス。1・2年次に経験した探究を基に、さらなる情報収集の方法について学ぶ。(外部講師・サポートティーチャー)
- ・グループごとに情報収集のための実験、検証やフィールドワークの計画を作り、書籍やインターネット、フィールドワークで情報収集をする。(外部講師)
- ・プレゼンテーションのためのパワーポイント作成のポイントについてのガイダンス。(外部講師)
- ・学級内プレゼンテーションに向けて、グループ毎に収集した情報や考察・結論をまとめ、発表用のパワーポイントを作成し、発表の練習をする。役割分担をし、分かりやすい発表を目指す。
- ・学級内で優秀なプレゼンテーションを選出し、選出された作品は学年プレゼンテーションへと進む。

指導体制(環境整備、家庭・地域との連携)

講座編成: 各学級

授業担当者: 各学年教員13名・外部講師・サポートティーチャー